

文化的・社会的貢献活動(その1)

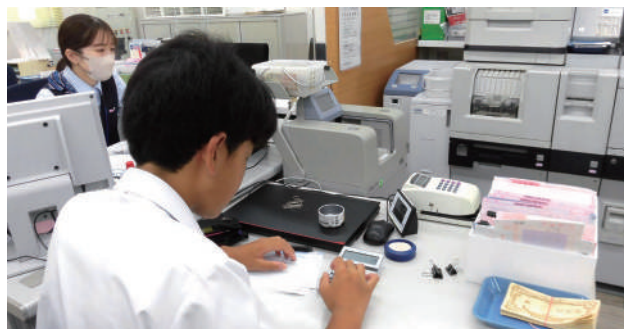
【中学生の職場体験学習】

当組合は中学生を対象にした職場体験学習に、継続して協力しています。この学習は、職業に対する視野を広げ、勤労の大切さや意義を理解して、将来の職業選択に役立てることを目的に行われています。令和7年度は6月から8月にわたって、竹原支店、向洋支店、戸坂支店、可部支店、安浦支店、廿日市支店の6店舗で実施し、近隣の学校から合計8名を受け入れ、札勘、パソコン入力、窓口業務をはじめ、ATM操作など特色のある業務を体験していただきました。参加者の中には将来の夢の実現のために、金融機関を選んできた生徒がいたり、普段見ることのない多額の紙幣にふれて興味を持ち、札勘練習を懸命に行った生徒がいました。

後日、生徒から丁寧なお礼状が送られてきました。これからも地域金融機関として、次代を担う若者たちの将来の進路選択に役立つ機会を提供していきます。



向洋支店



戸坂支店



可部支店



廿日市支店

【しんくみいきき献血運動】

9月3日の「しんくみの日」にあわせた社会貢献活動として、献血運動を毎年実施しています。24回目となる令和7年度は9月4日(木)、シシヨービル13階大会議室を会場に実施しました。近隣にお勤めの方にも声掛けしたほか、本店ビル1階の受付カウンターやエレベーターホールにも催し案内を掲示しました。当日は近隣にお勤めの方や近隣店舗の職員(16店舗、30名)の参加があり、68名の方(来場者:92名)に協力していただきました。広島県内では年間11万人の方が献血に協力しているそうです。その人数は献血可能な全人数の約4%にあたり、さらにこの数値を上げていきたいと、今後の協力願いを日赤より受けています。この24年間の実績は延べ参加者1,515名、献血者1,118名となりました。これからも社会、地域が求める活動に積極的に協力していきます。



【しんくみの日週間の寄付金贈呈】

9月3日は「しんくみの日」と定め、信用組合では各種の社会貢献運動を実施しています。その一環として、三矢会太田川学園^{さんしかい}（広島市安佐南区）と似島学園（広島市南区）、広島修道院（広島市東区）の各社会福祉法人に寄付金を贈呈しました。三矢会太田川学園は昭和43年に開園し、平成28年よりアート活動を活発に行っています。「ハナサクモリ」というギャラリーに多くの作品を展示し、その作品の一部を「Cafe de アート」と銘打ち、安佐南区内の学校や公民館、カフェに飾っています。似島学園は広島湾に浮かぶ似島にて、昭和21年より児童福祉事業を営まれ、山麓に広がる300アールの広い敷地で子どもたちがのびのびと生活を送っています。広島修道院は明治22年に創設された施設で、様々な事情により家庭で養育を受けることができない2歳から18歳までの子どもたちがここから通園、通学し、家庭的な雰囲気の中で生活しています。これらの寄付が、福祉の一助になることを願い、これからも地域社会に貢献していきます。

■ 社会福祉法人三矢会



■ 社会福祉法人似島学園



■ 社会福祉法人広島修道院



【大学生のインターンシップの受け入れ】

産学連携の取り組みとして、毎年インターンシップの学生を受け入れています。令和7年度は8月に広島市内の大学生や短大生の計3校、10名を受け入れ、3日間の研修を実施しました。本店13階大会議室で当組合の概要と業務、本店・本部内の見学、DVDの視聴、コンプライアンスやビジネスマナーの研修を受け、営業店では5店舗に分かれて朝礼、接客の実務、得意先係との同行訪問などを実習していただきました。参加学生には、元気に挨拶すること、業務の確認作業、お客さまとの信頼関係づくりなど地域金融機関として当たり前の日常業務も体験していただきました。これらの研修を通じて、将来の地域を担う人材が育っていくことを期待しています。



【模擬就職面接に竹原支店協力】

令和7年9月5日（金）、竹原商工会議所（竹原市）が主催する模擬就職面接に協力し、竹原支店長が面接官を務めました。これは地元の高校生の活躍を地域で後押しする取り組みで、広島県立竹原高等学校商業科3年生の17名が面接に臨みました。面接は高校生1名に対し面接官2名が対応する形で行われ、模擬面接後に感想やアドバイスなどをフィードバックし、質疑応答も行いました。面接官を担当した支店長は3名と面談し、「学校、家庭、地域が各自のキャリア形成を支援する取り組みは、とても大切です。この経験を今後の活動に活かしてほしい」と感想を述べています。高校生の就職希望者は少子化と進学希望者増加により、減少傾向にあるため、人手不足の地場企業では採用意欲が高まっています。これからも、将来の地域を支える若い世代の育成に協力していきます。



文化的・社会的貢献活動(その2)

【江波漕伝馬に江波支店協力】

厳島神社の「管絃祭」は毎年旧暦の6月17日に行われ、今年は令和7年7月11日(金)に行われました。江波支店では地域からの要請を受け、職員2名が御座船を曳航する江波漕伝馬船に乗込みました。祭り当日までの約1か月間、櫓の漕ぎ方や盆踊りを練習しました。祭りの始まりは前日7月10日(木)の「川上り」から。舟歌を歌いながら江波沖から出発し、本川を上って川沿いの神社で安全祈願と、原爆死没者慰霊碑で黙とうを行いました。そして次の日、本番の管絃祭では荘厳な雰囲気包まれた中、早朝から夜中までの長い一日を地域の皆さんと過ごしました。参加した職員は「この感動は何年経っても忘れることはない」「この達成感は日常では経験できない」と感想を述べています。広島市の重要無形文化財に指定され、また水産庁主催「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に県内で唯一選ばれた江波漕伝馬。地域に根差した伝統文化が末永く地域に愛され受け継がれていくことを願っています。



【コイン通り商店街秋夜市に五日市支店協力】

造幣局に面した約1.5kmの通称コイン通り(広島市佐伯区五日市)で、令和7年9月20日(土)の夕方から、「コイン通り商店街秋夜市」が開催され、五日市支店が協力しました。「ゆかたの着納しん祭」と銘打っているこの祭りに、今回初となるプロジェクションマッピングによる光の演出が加わり、多くの浴衣姿と相まって幻想的な雰囲気の祭りとなりました。職員はメイン会場で行われた縁日イベントの射的ブースを担当し、射的の様子を撮影したり、的を射るポーズを教えるなど家族の微笑ましい光景にふれました。また通りのほぼ中心部に位置する同店では駐車場が創作エイサーと和太鼓の演奏とドリンクコーナーの会場となり、祭りの盛り上げに協力しました。今後も、地域の皆さんと協力しながら、地域の活性化に貢献していきます。



【二百廿日豊年市民祭に廿日市支店協力】

廿日市市で300年以上続き、立春から220日目を目途に豊作を感謝する「二百廿日豊年市民祭」が令和7年9月13日(土)、メイン会場の廿日市市中央市民センターを中心に、周辺の天満宮や商店街で行われました。当日は俵神輿や鬼、天狗も街を練り歩き、各所で幅広い年代の方が楽しめるイベントが催され、多くの屋台も並び、多くの人でにぎわいました。廿日市支店は祭り会場の中心部にあることから、支店の駐車場を駐輪場として提供するとともに、支店職員は子どもたちに税金についてのクイズ用紙を配布し、回答用紙と引き換えに、参加賞(文房具とお菓子)を渡すブースをお手伝いしました。懸命の呼び込みが功を奏し、あっという間にクイズ用紙は配り終わりました。地元の方の顔なじみの方も訪れ、にぎやかに楽しく交流しました。これからも地域を盛り上げる取り組みに積極的に協力していきます。

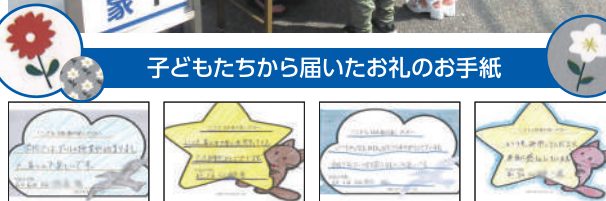


【こども110番の家スタンプラリーに出島支店協力

令和7年7月5日(土)、広島市立宇品小学校(広島市南区)の学区内で「こども110番の家」スタンプラリーが開催され、出島支店の職員が協力しました。この催しはふれあいを通して、子どもたちに「こども110番の家」の場所を歩いて確認するために行われています。支店では遠くからでも良く見えるように大きな看板を毎年掲示して参加しています。当日は猛暑にもかかわらず6名の子どもたちとその保護者が訪れ、持参したスタンプ帳に職員がお花のシールなどを貼って、ラリーを盛り上げました。保護者から労いとお礼の言葉をいただき、後日、子どもたちからお礼の手紙が届きました。この自筆の手紙は宝物として大切に保管しています。これからも子供たちが元気に成長できる地域環境づくりに協力していきます。



子どもたちから届いたお礼のお手紙



【稲生神社夏まつりに駅前支店協力

令和7年7月17日(木)と18日(金)、稲生神社(広島市南区)で夏まつりが行われ、駅前支店の職員が協力しました。神社横の道路が歩行者専用道路となり、飲食、ゲーム、福引き、夜店などが催されました。初日が雨の影響により飲食を中心にコンパクトに行われたため、2日目は近隣から多くの人々が訪れてにぎわいました。職員はステージイベントや、子供向けのゲーム、ボンネットバスの無料試乗会などの運営を手伝いました。特に、最近では減多に見ることのないボンネットバスの乗車会に多くの家族連れが並び、運行コースの説明をしたり、乗下車の交通整理に奮闘しました。多くの顔なじみの方との深耕を深め、地域とつながることの大切さを再認識しました。これからも地域の活性化に積極的に協力していきます。



【夏を告げる新庄夜市に大朝支店協力

令和7年7月19日(土)、山県郡北広島町で恒例の「第42回新庄夜市」が開催され、大朝支店の職員も参加し、祭りの盛り上げに協力しました。新庄学園通り300mの区間を車両通行止めにし、通りに接する新庄学園の駐車場をメイン会場に、30もの屋台が並びました。通りの入口にはシンボルの「新庄夜市」と書いてある巨大ちょうちんが掲げられ、通りでは浴衣姿で新庄音頭を踊り、ステージでは新庄学園の学生による吹奏楽、ダンス、書道、美術、軽音楽があり、新庄はやし田やミュージックステージも催されました。

参加した職員は、「今年の夏も猛暑の影響で、外出を控えている方も多いとは思いますが、地元のお祭りはやっぱり集まらなくては。顔を合わせて笑顔で楽しまなくては」と参加の意義を述べています。大朝地区を代表するこの夏祭りは、地域の心と心をつなぐ大切な催しです。これからも地元に関わり、地域おこしに積極的に協力していきます。

